

国語

その②

言葉（叙述・描写）を基に考え、互いの見方・考え方を仲間と交流することによって得られる楽しさを味わえるようにしましょう。

叙述・描写を基に登場人物の相互関係について捉えることに課題が見られました。叙述・描写を基に考えることは、深い学びの鍵となる「言葉による見方・考え方」を働かせることにつながります。児童生徒一人一人の考えを生かし、発問や板書を工夫することで、暗示的な表現からの読み取りや複数の叙述・描写からの読み取りなど、読みを深める面白さを味わわせる指導例を紹介します。

課題の見られた問題 出題の趣旨と結果

小学校	2- (1)	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に考える。	正答率	全国 68.4%	県 67.7%	自校 %
			(■解説資料 P.24~P.25 ■報告書 P.36)			
中学校	3- 三	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。	正答率	全国 62.0%	県 62.9%	自校 %
			(■解説資料 P.32~P.33 ■報告書 P.48)			

指導改善のポイント

着目した文(言葉)は「...」です。ここから◇◇ということが読み取れます。



確かに「...」からも分かるな。◇◇は「...」からも読み取れるな。



～「国語の勉強が好き」な児童生徒を育成するために～

考えを交流する場面において、話し手は「**着目した言葉(叙述・描写)**」と「**そこから読み取れること**」を明確にして伝えること、聞き手は相違点を意識して聞くことができるように指導しましょう。

また、読みを深める面白さを味わわせるために、**発達の段階や指導事項を踏まえて、発問を工夫**しましょう。

授業アイデア例

小学校第5学年「たずねびと」(9月頃)

前時までに捉えた場面の様子や登場人物の心情を踏まえ、「綾」の心情の変化について、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などの描写を基に捉えることをねらいとしています。

アイデア例では、児童の発言を取り上げて発問し、読みを深める学習を紹介します。

山田さんの発言
私が**着目した文**は、114ページ9行目にある「**気が遠くなりそうだった。でも、目からはなせなかつた。**」です。ここから、広島に着いてからの綾は、原爆の被害が**思っていた以上で**「とてもショックだったこと」が**読み取れます**。

広島に着いてから、「綾」はどのような気持ちになっているのだろう。
「気が遠くなりそうだった。でも、目からはなせなかつた。」
でも、目からはなせなかつた。ショックだった。

児童の発言を取り上げて意図的に発問し、読みを深める面白さを味わわせましょう。

複数の叙述を関連させる

「とてもショックだった」とは、他の文(言葉)からも読み取れますか。」
111ページの「頭がくらくらしてきた。」や、113ページの「うちのめされるような気持ち」もショックだったことが分かります。
「気が遠くなりそうだった。でも、目からはなせなかつた。」
でも、目からはなせなかつた。ショックだった。
頭がくらくらしてきた。
うちのめされるような気持ち。

児童 C

教師

言葉を絞り込む

「とてもショックだった」とは、この文の中の、特にどの言葉から伝わりますか。」
「気が遠くなりそう」です。「気が遠くなる」を辞書で調べると「意識がうすれ、ぼうつとなる」と書いてあります。この意味から考えると、特にこの言葉から、とてもショックだったことが伝わります。
「気が遠くなりそう」だった。
でも、目からはなせなかつた。
とてもショックだった。

児童 B

教師

着目した叙述から

山田さんが取り上げたこの文(言葉)から、他にどんなことが読み取れますか。」
他にも、「目からはなせない」ということから、「原爆のことをきちんと受け止めないといけない」という思いもあると思います。
「気が遠くなりそうだった。でも、目からはなせなかつた。」
でも、目からはなせなかつた。ショックだった。
受け止めないといけない。

児童 A

教師

複数の描写(叙述)を結び付けて全体像を具体的に想像する力を身に付けることにつながります。

言葉の意味を理解することで語句の数を増やし、語彙を豊かにすることにつながります。

登場人物の行動や心情などを、描写(叙述)を基に捉える力を身に付けることにつながります。

指導改善のポイント

～「国語の勉強が好き」な児童生徒を育成するために～

場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する際に、**なぜそう読み取れるのか、解釈の根拠を考える**ことで文章を深く理解することにつながります。

物語全体の展開を考慮して描写に着目すると、**一読では気付きにくい新たな描写の捉え**ができます。読みを深める面白さとして味わわせていきましょう。

着目した描写 → 解釈 → 読み取ったこと

その描写から、なぜそう読み取れるのか

授業アイデア例

中学校第1学年「星の花が降るころに」(9月頃)

複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写と結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けをすることをねらいとしています。

アイデア例では、同じ言葉「銀木犀」を複数回提示している作者の意図についての生徒の発言を取り上げ、解釈の根拠について全体で検討する学習を紹介します。

高井さんの発言
この文章には「銀木犀」という言葉が何回か出てきます。中でも私が**着目した描写**は、冒頭の場面の「二人で木に閉じ込められた」と結末の場面の「銀木犀の木の下をくぐって出た」です。「私」の、**夏実に対する気持ち**が変化していることを効果的に表していると思います。

着目した描写
銀木犀 木に閉じ込められた。くぐって出た。
夏実に対する気持ちの変化

読み取ったこと

生徒の発言を取り上げて、解釈の根拠について検討しましょう。

<板書の例>



高井さんの「夏実に対する気持ちの変化したことを効果的に表している」というのは、どういうことですか。

「銀木犀」

夏実と二人
木に閉じ込められた
夏実とずっと一緒に

←「私」一人
真下に立って見上げた
前へ歩もう

くぐって出た
新たな自分へ

私の気持ちの変化

同じ物や場所が出てくることは、作者のどのような意図があるのだろう。

複数の場面や描写を関連させる

私は「銀木犀」という言葉が出てくる他の部分と関連させて考えました。結末の場面の「私は真下に立って銀木犀の木を見上げた」も、「銀木犀」がキーワードになっています。「私」の前に歩み出そうとする**決意**が表現されているので、**気持ちの変化**を…。

生徒C

言葉を絞り込む

私は言葉を比較して考えました。「閉じ込められる」は、夏実に対して固執しているような様子、「くぐって出る」は、前に**進み始めた「私」の様子**を感じるので、**気持ちの変化**を…。

生徒B

着目した叙述から

私は、誰の行動を示す言葉かを考えました。「木に閉じ込められた」のは夏実と二人。「くぐって出た」のは「私」一人。ここから、「私」の一人**で新たに歩み出そうという決意**が感じられるので、**気持ちの変化**を…。

生徒A

<学習の振り返りの記述例>

みんなと解釈の根拠を検討して、作者が「銀木犀」の描写を何回か出すことで、「私」の気持ちの変化を効果的に表現していることが分かりました。**場面や描写を結び付けたり比べたり、言葉の持つ意味を考えたりして読むと、新しい発見があり、文章を読むことが楽しいと感じました。**



ポイント

「言葉(叙述・描写)を基に読む力」は、自分の考えを適切に表現する力の育成につながります。

「叙述を基に読む力」を育成する中で、複数の叙述(情報)を結び付けて考える力が身に付きます。こうした力は、自分の考えを話したり書いたりして表現する際に、様々な情報から必要な情報を選択し、相手に分かりやすく伝える力につながります。自分の考えを、根拠を明確にして相手に伝えることができた実感することで、国語を学ぶ意義や喜びを感じられます。

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成〔思考力、判断力、表現力等〕

学習の基盤となる資質・能力の「言語能力」、「情報活用能力」を身に付けるために、右に示す〔思考力、判断力、表現力等〕を育成することが求められています。学習した〔思考力、判断力、表現力等〕を発揮する場面を設定し、児童生徒の姿を価値付けていきましょう。

- ・ 社会科の「我が国の国土の地形や気候の概要」の学習で、図やグラフ、言葉から情報をつないで考えている姿を価値付ける。
- ・ 音楽科で曲想と歌詞の内容との関わりを、複数の描写と関連させて学習している姿を価値付ける。

「言語能力」を構成する資質・能力

思考力、判断力、表現力等

- ・言葉によって感じたり想像したりする力
- ・感情や想像を言葉にする力
- ・言葉を通じて伝え合う力

「情報活用能力」を構成する資質・能力

思考力、判断力、表現力等

様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力

「学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」より